

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												結核	ProMED-mail20081207-3839	米国ミネソタ州のBeltrami Countyにおいて、ウシ結核が3頭で確認された。
												結核	ProMED-mail20081208-3856	90232に同じ
75	2009/3/19	81018	第一三共	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
76	2009/3/23	81019	フジモト・ダイアグノスティック	ー	ウグシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	日本白色種家兔皮膚抽出液	中国	有効成分	無	無	無			
77	2009/3/23	81020	味の素	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	OIE (December 23, 2009)	81012に同じ
												エボラ出血熱	promedmail(January 23, 2009)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認され、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示した。同ウイルスのブタからヒトへの感染を示す初の報告。
												エボラ出血熱	WHOEPDR Disease Outbreak News(February 3, 2009)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認された後、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示し、今回さらに4例の抗体陽性例を認めた。
78	2009/3/24	81021	北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
79	2009/3/24	81022	北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ガザミン酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
80	2009/3/24	81023	北里研究所	コレラワクチン	ビーフエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
81	2009/3/24	81024	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
82	2009/3/24	81025	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	中国、ポーランド、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
83	2009/3/24	81026	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、米、カナダ	製造工程	無	無	無			
84	2009/3/24	81027	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	エリスロマイシンラクビオン酸塩	ウシ乳	ニュージーランド、カナダ、米、オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセン	製造工程	無	無	無			
85	2009/3/24	81028	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血清、新生仔牛血清	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
86	2009/3/24	81029	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージーランド、米、国	添加物	無	無	無			
87	2009/3/24	81030	北里研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン 沈降新型インフルエンザワクチン(H5N1株)	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
88	2009/3/24	81031	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米、国	製造工程	無	無	無			
89	2009/3/24	81032	北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
90	2009/3/24	81033	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米、国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
91	2009/3/24	81034	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風トキソイド 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
92	2009/3/24	81035	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
93	2009/3/25	81036	伊藤ライフサイエンス	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
94	2009/3/25	81037	メルクセローノ	ダルテバリンナトリウム	ダルテバリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			
95	2009/3/26	81038	日本製薬	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	スロヴェニアで、HBs抗原陰性で抗HBc抗体陽性、抗HBs抗体低力価陽性、HBV DNA陽性の濃厚赤血球と新鮮凍結血漿を輸血された59歳の患者が4ヶ月後に急性B型肝炎を発症した。また同じ供血血液由来のRCCの輸血を受けた71歳の患者も7ヶ月後にHBV感染を認めた。2例ともドナーと同じ配列を有するジェノタイプDが感染していた。潜在性B型肝炎ウイルス感染者の血液は抗HBs抗体が陽性にかかわらず、感染性を有した。
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	2004年9月20日に39歳日本人男性から献血された血液はALT高値のため不適当とされ、HEV陽性であった。当該ドナーの遡及調査の結果、9月6日にも献血を行い、HEV RNAを含有する血小板が輸血されていた。当該ドナーと親戚は8月14日にブタの焼肉を食べており、父親は9月14日に急性肝炎を発症し、E型劇症肝炎で死亡した。他に7名がHEV陽性であった。レシピエントは輸血22日目にALTが上昇し、HEVが検出された。
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	供血時には血清検査陰性であったが、その後HBV DNAが検出された供血者由来の血液成分を輸血された2名の免疫不全患者について調べた。受血者1はHBVワクチン接種を受け、抗HBsキャリアであったが、赤血球輸血後13ヶ月で急性B型肝炎を発症するまで他のHBVマーカーは全て陰性であった。供血者とHBVシークエンスが一致したため、輸血関連感染と確認された。受血者2は血小板輸血を受けたが、感染していなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	血漿交換、コルチコステロイドおよびコリンエステラーゼ阻害剤による治療を受けていた重症筋無力症患者が、アルブミンを用いた血漿交換を行った2週後にバルボウイルスB19感染による赤芽球減少症と診断された。アルブミン由来感染かどうかを確定することはできなかったが、アルブミンなどの血液製剤によるB19感染を除外することはできない。
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	日本のブタから分離されたHEVジェノタイプ3または4の4株について熱処理およびフィルターによる除去の程度を検討した。HEVはアルブミン溶液中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で60°C72時間加熱後も感染力が検出されたが、PBS中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で80°C24時間加熱後には検出限界以下に不活化された。一方、20nmナノフィルター使用により完全に除去された。
96	2009/3/26	81039	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロピンⅢ	人アンチトロピンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	スロヴェニアで、HBs抗原陰性で抗HBc抗体陽性、抗HBs抗体低力価陽性、HBV DNA陽性の濃厚赤血球と新鮮凍結血漿を輸血された59歳の患者が4ヶ月後に急性B型肝炎を発症した。また同じ供血血液由来のRCCの輸血を受けた71歳の患者も7ヶ月後にHBV感染を認めた。2例ともドナーと同じ配列を有するジェノタイプDが感染していた。潜在性B型肝炎ウイルス感染者の血液は抗HBs抗体が陽性にかかわらず、感染性を有した。
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
97	2009/3/26	81040	日本製薬	トロンピン	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウィルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ
98	2009/3/26	81041	日本製薬	人血清アルブミン(20%) 加熱人血漿たん白 人血清アルブミン(25%) 人血清アルブミン(5%)	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウィルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ
99	2009/3/26	81042	ジェンザイム・ジャパン	アガリンダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	アガリンダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞	宿主細胞株は、Dr. L.A.Chasin(Columbia University)より入手したジヒド	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
100	2009/3/26	81043	ジェンザイム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
101	2009/3/26	81044	光製薬	ダルテバリンナトリウム注射液	ダルテバリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE(November 13, 2008)	中国における口蹄疫:発生日 2008年11月6日、最初の確定日 2008年11月8日、報告日 2008年11月12日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2008年11月6日にGANSU省Tianshui地区Ganguで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。疑い例はウシ238頭、ヒツジ3頭およびブタ56頭、確定例はウシ102頭、死亡例0頭であった。疑い例は全て処分された。
												ウイルス感染	ProMED-mail2009021 0.0598	中国における豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS)の発生。中国北部Shanxi省Hongdong県でブタ1056頭死亡。同県周辺の屠殺場7箇所でも30頭の罹患ブタが確認された。
102	2009/3/27	81045	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン	ウシ肺臓	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
103	2009/3/27	81046	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ胚	日本、米国、メキシコ	製造工程	無	無	無			
104	2009/3/27	81047	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリブシン	ブタ臓臓	カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
105	2009/3/27	81048	バクスター	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
106	2009/3/27	81049	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固VIII因子	乾燥濃縮人血液凝固VIII因子	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
107	2009/3/27	81050	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固VIII因子	人アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
108	2009/3/27	81051	CSL ベーリン グ	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン 液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
109	2009/3/27	81052	CSL ベーリン グ	フィブリノゲン加第XIII因子	アンチトロン ビン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	有	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	FDAはBPDR(生物学的製剤逸脱報告システム)により、2005年に2例、2006年に3例、2007年に3例の輸血によるバベシア症感染報告を受けていた。受血者は輸血後2.5~7週で症状が進行し、2ヶ月以内に死亡した。
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
110	2009/3/27	81053	CSL ベーリン グ	フィブリノゲン加第XIII因子	フィブリノゲ ン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
111	2009/3/27	81054	CSL ベーリン グ	人血清アルブミン 人血液凝固XIII因子 フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アル ブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分 添加物	有	無	無	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	81013に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	81052に同じ
112	2009/3/27	81055	CSL ベーリン グ	フィブリノゲン加第Ⅷ因子	トロンビン末	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分	有	無	無	異型クローン フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
113	2009/3/30	81056	伊藤ライ フサイエ ンス	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリン ナトリウム	ブタ小腸粘 膜	中華人民 共和国	有効成分	無	無	無			
114	2009/3/30	81057	サノフィ パスツ ール第一 三共ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	脱線ウマ血 液	ウマ血液	フランス	製造工程	無	無	無			
115	2009/3/30	81058	サノフィ パスツ ール第一 三共ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ウシ心臓浸 出液	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
116	2009/3/30	81059	サノフィ パスツ ール第一 三共ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ウシ骨格筋 由来成分(ペ プトン)	ウシ骨格筋	オーストラ リア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
117	2009/3/30	81060	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ペプトン	ブタ皮	米国及び カナダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	OIE (December 23, 2008)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで エボラレストンウイルスが確認された。同ウイ ルスのブタへの感染を示す初の報告。
118	2009/3/30	81061	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	カゼイン酸加 水分解物	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
119	2009/3/30	81062	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ヘミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
120	2009/3/30	81063	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	カゼインパン クレアチン消 化物	ウシ乳	米国、 ニュージ ーランド、 オーストラ リア、フラ ンス	製造工程	無	無	無			
121	2009/3/30	81064	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	肉エキス	ウシ肝臓及 び肺	フランス	製造工程	無	無	無			
122	2009/3/30	81065	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	トリプトンV	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
123	2009/3/30	81066	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	カゼインペプ チドN3	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
124	2009/3/30	81067	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	スキムミルク	ウシ乳	米国及び 英国を除く ヨーロッパ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
125	2009/3/30	81068	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス(WNV)脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳の女性、2例目はFerraraに住む60代後半の男性であった。また、ウマ6頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	米国の供血者のヘルペスウイルス8(HHV8)ゲノム陽性率について、高感度定量RT-PCR法(検出限界8コピー)より684名の検体を分析したがHHV8ゲノムは検出されず、健康な供血者におけるHHV8陽性率は非常に低かった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	CJDサーベイランス委員会による調査では1999年4月から2008年2月までの9年間に日本国内で1069例がプリオン病と判定された。うち孤発性CJDが821例(76.8%)、遺伝性プリオン病が171例(16.0%)、硬膜移植後CJD74例(6.9%)、変異型CJD1例(0.1%)、分類不能2例(0.2%)であった。日本のプリオン病剖検率は欧米諸国より著明に低かった。孤発性CJDの病型は欧米に比べMM2型が多かったが、非典型例が多く剖検されている可能性が考えられた。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医源性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医源性CJDと分類された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	米国内で、古典的CJDを発症した供血者計35名に由来する血液成分の受血者430名の遡及調査の結果、孤発性CJDが輸血で伝播する証拠は無く、リスクはvCJDと比較して有意に低かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e2878	野生型マウスおよびヒトPrPを発現しているトランスジェニックマウスに、輸血関連vCJD感染第1号症例由来の脳材料を接種し、輸血によるヒト-ヒト間の2次感染後のvCJD病原体の性質について調べた。その結果、潜伏期間、臨床症状、神経病理学的特徴およびPrP型について、vCJD(輸血)接種群はvCJD(BSE)接種群と類似していた。vCJD病原体は、ヒトにおける2次感染により、有意な変化が起こらないことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood. Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	ウイルス除去膜濾過工程を含んでいる製剤(血液凝固第VIII因子製剤: プラノバ20N濾過、抗HBs人免疫グロブリン製剤: プラノバ35N濾過)について、263K株感染ハムスターより得たSUS処理PrPScを用いて、その除去効果を検証した。その結果、SUS処理PrPScは濾過膜の孔径よりも小さいにもかかわらず、プラノバ35Nやプラノバ20Nで除去された。PrPScが凝集したり、膜へ吸着したためと考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	スクレイビー263K感染ハムスター脳乳剤を脳内接種したハムスターにおける血中PrPres経時的変化を追跡したところ、PK抵抗性3F4反応性蛋白バンドは、感染後4~6週で認められ、10週ではほぼ消失した。発症末期では血中PrPresと見られる蛋白バンドは認められなかった。PrPresをマーカーとした血液検査は感染後発症前~発症中期までに限定される可能性が示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	ヨーロッパにおいて報告された人口100万人当たりの新規HIV感染率は、2000年以降ほぼ2倍となった。2007年は、当該地域53カ国中49カ国から合計48,892例のHIV感染が報告され、エストニア、ウクライナ、ポルトガルとモルドバ共和国で感染率が最も高かった。
126	2009/3/30	81069	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚	日本	有効成分	無	無	無			
127	2009/3/30	81070	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
128	2009/3/30	81071	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ膀胱	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			
129	2009/3/30	81072	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
130	2009/3/30	81073	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
131	2009/3/30	81074	武田薬品工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
132	2009/4/1	90001	日本ビーシーエー製造	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。
												インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-2	2008年11月8日、スペイン北東部、家内養豚場勤務の50歳女性がインフルエンザ様症状を発症し、ブタインフルエンザAH1N1が検出された。近縁者、同僚等での症状は認められていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												神経系障害	Feedstuff Breaking News (2009/3/3)	2007年に、米国の豚肉製造工場で脳摘出のために圧縮空気を使用していたミネソタ州、インディアナ州、ネブラスカ州の3つの工場の作業員において慢性的な炎症性の脱髄性多発性神経障害が発生している。すでに自主的にこの作業は中止されている。
133	2009/4/1	90002	日新製薬	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-2	90001に同じ
												エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	90001に同じ
												神経系障害	Feedstuff Breaking News (2009/3/3)	90001に同じ
134	2009/4/1	90003	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	血液凝固第Ⅸ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	80995に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	エンガンウイルスは、マウスにおいて胎児死亡や奇形を起こすことが知られているが、疫学的データから、ヒトにおいても子宮内胎児死亡に関連していることが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	日本国内の前立腺がん患者30例の血清のうち2例からGagに対する特異的抗体反応が認められ、そのうち1例からはXMRV(Xenotropic MuLV-related virus)核酸を検出した。また、献血者120例中5例でもGagに対する特異的抗体反応が認められた。日本国内の前立腺がん患者集団中にもXMRV感染が存在することが示唆された。
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	ジンバブエ保健当局からのコレラアウトブレイクの報告。2008年8月26日から2009年1月31日までに61,304例の感染疑い、3,181例の死亡。また、ボツワナ、モザンビーク、ケニヤ、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ギニアビサウ及びトーゴといった周辺国からも発生が報告されている。
135	2009/4/1	90004	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
136	2009/4/1	90005	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	クックドミート	ウシ心臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
137	2009/4/1	90006	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	クックドミート	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
138	2009/4/1	90007	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ウシ胃	米国	製造工程	無	無	無			
139	2009/4/1	90008	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
140	2009/4/1	90009	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	肝臓	ウマ肝臓	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
141	2009/4/1	90010	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	ブイオン	ブタ胃	ニュージーランド、オーストラリア、米国	製造工程	無	無	無			
142	2009/4/1	90011	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
143	2009/4/1	90012	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	バンクレアチン	ブタ脾臓	カナダ、イタリア、米国	製造工程	無	無	無			
144	2009/4/1	90013	日医工	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
145	2009/4/1	90014	日医工	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
146	2009/4/2	90015	東菱薬品工業	バトロキソピン	バトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
147	2009/4/2	90016	東菱薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
148	2009/4/3	90017	富士製薬工業	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	ProMED-mail20081120.3661	CDC中国国立研究所の研究者らによる研究で、中国における初めてのヒト顆粒球アナプラズマ症(HGA)症例およびそれに続くHGAの初めてのヒト-ヒト感染が報告された。指標患者は発熱・出血の発症の12日前にダニに刺され、安徽省の病院に入院し、死亡した。死亡前12時間に患者と濃厚接触した28名中9名がAnaplasma phagocytophilumに感染した。9名全員が血液に接触し、7名が気道分泌物に接触していた。この研究はJAMA2008年11月19日号に掲載された。
												ウイルス感染	Bulletin of WHO 2008; 86: 912-913	2008年10月初旬に南アフリカでアレナウイルスによる感染のアウトブレイクが同定された。9月12日から10月24日までに計5例が報告され、5例中4例が死亡し、1例は入院中であり、リバビリンにより回復した。塩基配列分析より、新型の旧大陸アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。現在のところ新たな疑い症例はない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO 2009年1月19日	中国保健省はH5N1鳥インフルエンザのヒト感染例を3例報告した。1例目は山東省27歳女性で1月5日に発症し、17日に死亡。2例目は山西の2歳女児で1月7日発症し重篤である。3例目は湖南省16歳男性で1月8日に発症し重篤である。
												HIV	Retroviology 2008; 5: 103	シエラレオネ共和国から米国への移民男性においてHIV-2の新たなグループ(HIV-2-NWK-08F)が分離された。シエラレオネのサル的一种で確認されているサル免疫不全ウイルスと系統学的に類似している。感染者はサル接触歴、刺青、針刺し、輸血歴もなくヒト-ヒト感染が疑われている。
149	2009/4/3	90018	富士製薬工業	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
150	2009/4/3	90019	富士製薬工業	トロンピン	トロンボプラステン	ブタの肺	デンマーク	製造工程	有	無	無	エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。
151	2009/4/3	90020	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	埼玉県における2002年1月～2007年12月の腸管出血性大腸菌の患者・保菌者372例と非発症者477例を対象とした牛肉の喫食状況のリスクを調査したケースコントロール研究である。20～29歳ではレバ刺し、ハンバーグ、50～59歳ではレバ刺しに関して有意差があった。
152	2009/4/3	90021	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
153	2009/4/3	90022	デンカ生研	ウイルス病秋やみ混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
154	2009/4/3	90023	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン ジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
155	2009/4/3	90024	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
156	2009/4/3	90025	デンカ生研	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
157	2009/4/3	90026	デンカ生研	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
158	2009/4/3	90027	デンカ生研	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	尿膜腔液	ニワトリの受精卵	日本	製造工程	有	無	無	サルモネラ	CDC/MMWR 2009; 58: 25-29	2007年6月、ミネソタ州においてSalmonella Montevideo(PFGE pattern 1)が初めて2例確認され、両者とも同じ孵化場のニワトリに暴露しており、その後さらに7例が確認されたため、全米で調査が行われ、65件が確認された。またS.Montevideo(PFGE pattern 2)についても、最初に2004年に確認された後、64件の分離が確認され、これは別の2箇所の孵化場からのニワトリ暴露に関連していた。
159	2009/4/3	90028	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタの胃	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	日本脳炎	第40回日本小児感染症学会総会・学術集会 F-13	2007年度感染症流行予測調査事業より、国内のヒト及びブタの日本脳炎抗体保有状況の報告。調査された32都道府県のうち、HI価1:10以上のブタ抗体保有率が50%を超えた地域は、高知県(7月下旬までに)、中国・四国・九州地方(8月下旬までに)、富山県、山梨県、静岡県(9月までに)に広がり16県に及んだ。
												エボラ出血	OIE press release 23Dec2008	80963に同じ
												インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 2E05	タイで分離された豚インフルエンザウイルス12株の遺伝子について系統解析を行い、9つの遺伝型に区別された。
												鳥インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 3F03	インドネシアにおいて鳥インフルエンザH5N1の豚への感染状況が調査され、系統解析の結果、遺伝的に異なる3種類のH5N1ウイルスが感染しており、ヒト型レセプターを認識する変異を有するものも確認された。
												エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	90001に同じ
160	2009/4/3	90029	デンカ生研	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	製造中止	製造工程	無	無	無			
161	2009/4/3	90030	デンカ生研	ウイルス病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
162	2009/4/3	90031	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	有	無	無	レプトスピラ症	Jpn J Infect Dis 2008; 61: 465-468	ヒトでのレプトスピラ感染が発生した2006年夏の宮崎県北部における動物の保菌状況を調査した。患者の血清は、特に各々の患者が発生した地域周辺で捕獲された野ネズミから分離されるレプトスピラ菌株と一致し、野ネズミが人間のレプトスピラ感染症の原因であることを示唆した。また、猟犬からも抗レプトスピラ抗体が検出された。ハンターや食肉加工業の労働者での潜在的危険を示している。
												E型肝炎	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P021	HEV Genotype3型の感染が確認されている豚舎周辺のドブネズミの感染保有状況の調査。9/56匹のドブネズミからHEV-RNA(Genotype3)が検出され、11/56匹からHEV抗体が確認された。
												E型肝炎	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P022	タイの養豚場における齧歯類のE肝ウイルスの検出。養豚場に生息するラットから、ブタから分離されたHEV-RNAと一致するHEV-RNAが分離された。ラットがE型肝炎ウイルスを蓄積する宿主となっている可能性がある。
163	2009/4/3	90032	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ 風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合 ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20090228-0826	2009年2月、愛知県豊橋市において、1925年以来検出されていないH7トリインフルエンザウイルスのウズラへの感染が確認された。その後の調査で、このウイルスは国内では初のH7N6亜型であることが判明した。感染農場、周辺地域では家畜の移動制限、殺処分が実施され感染拡大防止措置が取られている。ヒトへの感染は認められていない。感染源は不明。
164	2009/4/3	90033	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ 風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合 ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
165	2009/4/3	90034	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
166	2009/4/3	90035	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥破傷風抗毒素	ウマ血清	ウマの血液	米国	製造工程	無	無	無			
167	2009/4/3	90036	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	エリスロマイシンラクチビオン酸塩	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
168	2009/4/3	90037	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
169	2009/4/3	90038	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 日本脳炎ワクチン 水痘抗原	コレステロール	ヒツジの毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
170	2009/4/3	90039	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘抗原ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	トリブシン	ブタの臓腑	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	エボラ出血	Science 2009; 323: 451	フィリピン。2007～2008年に養豚場のブタの死亡率が上昇したことをうけ、政府の調査が実施され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(PRRS)ウイルス強毒株およびEbola-Restonウイルスの感染が確認された。ブタからEbola-Restonウイルスの検出は初めてである。
171	2009/4/3	90040	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	該当なし (製造中止)	製造工程	無	無	無			